

インフォメーション・コーナー

会 告

○公益社団法人農業農村工学会第47回定時総会の報告	76
○平成26年度名誉会員の推挙	77
○第24期理事役職者の選定および会務分担について	77
○研究部会長の交代について	78
○平成26年度農業農村工学会大会講演会プログラムの変更について(企画セッション5と11)	78
○土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「ほ場整備(水田)」、「農業用水(水田)」の発行について	78
○平成27年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再) 締切 10月31日	78
○第38回「水の週間」水のワークショップ・展示会について(第2報) 8月12~14日開催	79
○平成26年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について(再) 申請締切 9月12日	80
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願ひ	80
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	81
○平成27年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9月30日	81
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	82
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願ひ	83
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願ひと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局(投稿先)のお知らせ	83
○平成26年度東北支部総会・第57回東北支部研究発表会ならびに第47回東北支部研修会・ 第37回地方講習会の開催について(第2報) ㊦ 発表原稿締切 9月5日	84
○第65回関東支部大会の開催について(第2報) ㊦ 講演申込締切 7月31日	85
○第69回中国四国支部講演会ならびに第38回地方講習会の開催について(第1報) ㊦ 発表原稿締切 9月12日	86
○農村計画研究部会第36回現地研修集会の開催について ㊦ 参加申込締切 9月5日	87
○平成26年度土壌物理研究部会研究会の開催について ㊦ 10月24日開催	87
○第24回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について(第1報) ㊦ 発表申込締切 9月5日	88
○農地保全研究部会第35回研究集会の開催について(第1報) ㊦ 11月26, 27日開催	88
学会記事	89

第82巻第8号予定

展望：地球温暖化と気候変動への農業農村研究からのアプローチ：増本隆夫

小特集：農業農村整備事業における気候変動への対応および貢献

- ①パイプライン用水路整備による夏季灌漑水温の上昇抑制効果：坂田 賢ほか
- ②水田への疎水材暗渠の整備による温室効果ガス排出抑制の効果：塚本康貴ほか
- ③土地改良事業における温室効果ガスの算定手法について：橋本潤二ほか
- ④途上国の農村開発における地球温暖化対策の有効性：泉 太郎ほか
- ⑤暗渠整備による炭素貯留技術の温暖化緩和ポテンシャル：北川 巖ほか

技術リポート

北海道支部：塩害により劣化したコンクリートの機能診断事例：金谷雅宏ほか

東北支部：池底放射線濃度の面的測定技術確立に向けて：佐瀬隆聡

関東支部：畑地灌漑施設における河床式無動力除塵機取水システムの導入：松澤真一ほか

京都支部：庄川扇状地における浸透型洪水調整池：酢谷 岳ほか

中国四国支部：一般農道「財田地区」における静的破碎剤工法の施工事例：川西幸浩ほか

九州沖縄支部：石垣島地区におけるダクタイル管路の機能保全計画：仲間雄一ほか

小講座：固定価格買取制度：志野尚司

私のビジョン：左村 公

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成26年8月12~14日	農業用水展示実行委員会	第38回「水の週間」水のワークショップ・展示会	いのち育む水の恵み	東京都	82巻6, 7号
平成26年8月26~29日	大会運営委員会	平成26年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	新潟市	81巻12号, 82巻1, 2, 3, 4, 7号
平成26年9月19日	農村計画研究部会	第36回現地研修集会 Ⓟ	中越から地域の再建を学ぶ—新潟県中越地震10年の検証と教訓—	長岡市	82巻7号
平成26年10月23日	関東支部	第65回支部大会講演会, 講習会 Ⓟ	—	前橋市	82巻6, 7号
平成26年10月24日	土壌物理研究部会	平成26年度研究会 Ⓟ	現場技術のなかの土壌物理(仮)	仙台市	82巻7号
平成26年10月29日	北海道支部	第63回研究発表会 Ⓟ	—	札幌市	
平成26年10月29, 30日	九州沖縄支部	第95回講演会・第37回講習会・シンポジウム・現地見学会 Ⓟ	—	佐賀市	82巻6号
平成26年10月30, 31日	東北支部	平成26年度総会・第57回研究発表会・第47回研修会・第37回地方講習会 Ⓟ	—	仙台市	82巻6, 7号
平成26年11月5, 6日	中国四国支部	第69回支部講演会・第38回地方講習会 Ⓟ	—	鳥取市	82巻7号
平成26年11月6, 7日	農村道路研究部会	第24回研究集会・現地研修会 Ⓟ	農道の長寿命化について	津市	82巻7号
平成26年11月13日	京都支部	第71回研究発表会 Ⓟ	—	岐阜市	82巻4, 6号
平成26年11月26, 27日	農地保全研究部会	第35回研究集会・現地研修会 Ⓟ	都市と農地保全(仮)	藤沢市ほか	82巻7号

公益社団法人農業農村工学会第47回定時総会の報告

- 日時 平成26年5月27日(火) 14:00~14:46
- 場所 農業土木会館2階会議室
- 代議員現在数及び定足数 現在数109名 定足数55名
- 出席代議員数 94名(内, 出席16名, 書面により議決権を行使した代議員43名, 委任状により議決権を代理行使した代議員35名)
- 定足数の確認等
総務部長が, 定款第21条に基づき定足数の充足による本定時総会の成立を確認した。
- 出席役員
塩沢 昌会長, 中條康朗副会長,
小前隆美専務理事, 穂野和人, 平松和昭, 森井俊広各理事,
佐々木清貴監事
- 議長の選出
塩沢会長が仮議長となり, 全員一致で山本徳司代議員を議長に選出した。
- 議事録署名人の選出
議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ, 松浦良和, 湯浅眞介の両代議員を全員一致で選出した。

9. 議事 決議事項

- 議案-1 平成25年度事業報告

専務理事から同議案について説明があり, 事業計画に掲げた事項が遂行された実績を確認し, 審議の結果, 提示案どおり, 全員一致で可決した。

(2) 議案-2 平成25年度決算

専務理事から同議案について, 財務諸表をもとに公1調査研究等事業会計, 公2技術推進事業会計及び法人会計の説明があった。この際, 佐々木清貴監事から平成25年度事業報告及び決算についてその内容を監査した結果, 適正正確であるとの報告があった。審議の結果, 提示案どおり, 全員一致で可決した。

(3) 議案-3 名誉会員の推挙

専務理事から同議案について, 17名の方の名誉会員推挙の説明があった。審議の結果, 提示案どおり, 全員一致で可決した。

(4) 議案-4 役員の選任

第23期役員の任期満了に伴い, 第24期役員を次のとおり選任した。

理事 20名

穂野和人, 池田 正, 石井龍太郎, 井上 京,
北辻政文, 久保成隆, 小泉 健, 後藤 章,
小前隆美, 権平哲三, 佐々木清貴, 高瀬恵次,
豊田裕道, 中田摂子, 中野拓治, 林田直樹,

平松和昭, 松尾芳雄, 森井俊広, 渡邊紹裕
 監 事 2名
 萩野寿一, 長利 洋

報告事項

(1) 報告事項-1 平成26年度事業計画について
 専務理事から平成26年度事業計画について説明が

あった。

(2) 報告事項-2 平成26年度予算について
 専務理事から平成26年度予算について説明があった。
 議長は、以上をもって議案の審議等を終了したので、14
 時46分議事の終了を宣言した。

平成26年度名誉会員の推挙

「農業農村工学会名誉会員の推薦に関する内規」に則って第
 231 回理事会で推薦された次の17名の正会員（敬称略）が第
 47 回定時総会の決議により名誉会員に推挙されました。
 これにより名誉会員の現在数は、245名となりました。

青井 隆, 上田一美, 岡本芳郎, 加藤 誠, 河崎春海,
 甲本達也, 佐藤 寛, 戸澤正彦, 富田道久, 中曾根英雄,
 中西一継, 中野芳輔, 中山 晃, 中山 康, 広瀬慎一,
 藤澤敬三, 前川勝朗

第24期理事役職者の選定および会務分担について

平成26年5月27日開催の第233回理事会において、理事の
 中から定款第27条第2項の規定に基づき会長、副会長、専務
 理事を選定した。

また、第24期理事の会務分担および常置委員会委員長等を
 次のように決定した。

記

1. 会長等

会 長 渡邊紹裕
 副 会 長 林田直樹
 副 会 長 平松和昭
 副 会 長 池田 正
 専務理事 小前隆美

2. 理事の担当部門

〔担当部門〕	〔総括する副会長〕	〔担当理事〕
企画・運営業務	林田直樹	小泉 健, 石井龍太郎 佐々木清貴, 中田摂子 森井俊広
学会誌等定期刊行活動	平松和昭	森井俊広, 佐々木清貴 久保成隆, 豊田裕道 井上 京, 北辻政文 後藤 章, 高瀬恵次 松尾芳雄, 中野拓治
講演会等行事活動	池田 正	穂野和人, 石井龍太郎 小泉 健, 権平哲三 中田摂子
調査・研究活動	平松和昭	豊田裕道, 小泉 健 久保成隆, 中田摂子
編集・出版活動	池田 正	佐々木清貴, 豊田裕道

国際活動	平松和昭	穂野和人, 中田摂子 後藤 章, 権平哲三 久保成隆, 森井俊広
技術者教育活動	林田直樹	権平哲三, 佐々木清貴 穂野和人, 豊田裕道 石井龍太郎, 森井俊広 小泉 健
支部業務	林田直樹	平松和昭, 池田 正 井上 京, 北辻政文 後藤 章, 高瀬恵次 松尾芳雄, 中野拓治

3. 第24期常置委員会委員長等

企画委員会	小泉 健
広報委員会	中田摂子
定期刊行物委員会	平松和昭
学会誌企画・編集委員会	森井俊広
論文集企画・編集委員会	久保成隆
研究委員会	豊田裕道
出版企画委員会	佐々木清貴
行事企画委員会	池田 正
学術基金運営委員会	林田直樹
国際委員会	後藤 章
PWE日本委員会	後藤 章
学会賞選考委員会	平松和昭
上野賞選考委員会	久保成隆
スチューデント委員会担当	石井龍太郎
JEBEE 担当	森井俊広

研究部会長の交代について

平成 26 年 4 月 1 日付で下記研究部会長の交代しました。

記

研究部会名 畑地整備研究部会

新部会長 猪迫耕二（鳥取大学農学部）

前部会長 川島茂人

研究部会名 農地保全研究部会

新部会長 河野英一（日本大学生物資源科学部）

前部会長 長利 洋

研究部会名 農村道路研究部会

新部会長 竹内 康（東京農業大学地域環境科学部）

前部会長 北辻政文

研究部会名 農村生態工学研究部会

新部会長 森 淳（農村工学研究所）

前部会長 水谷正一

平成 26 年度農業農村工学会大会講演会プログラムの変更について（企画セッション 5 と 11）

平成 26 年度農業農村工学会大会講演会において、8 月 27 日午後開催予定の企画セッション 5「我が国の農業土木技術は、アフリカの稲作振興にいかにか貢献できるか」と 11「北陸地方に

おける先進的農業水利情報システム」の開催時間と会場が入れ替わります。詳細は学会ホームページをご覧ください。

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「ほ場整備（水田）」、「農業用水（水田）」の発行について

この度、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「ほ場整備（水田）」、「農業用水（水田）」が平成 26 年 7 月に発行されることとなりました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

1. 発行書籍

◇土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「ほ場整備（水田）」

価格：2,100 円（消費税 8% 込、送料学会負担）

規格：A4 判 378 ページ

主な改定内容：大区画整備の計画及び農地集積計画、水田畑利用計画及び地下かんがいの導入、ほ場を取り巻く水路等の再整備計画等について、体系的な整理及び記述の充実を図った。

◇土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農業用水（水田）」

価格：2,000 円（消費税 8% 込、送料学会負担）

規格：A4 判 300 ページ

主な改定内容：土地改良事業における環境との調和への配慮及び既存農業水利施設の更新整備等について、事業計画の作成に必要な基本的な考え方を追記し、併せて使用し易い

よう全体構成を変更する等記述の充実を図った。

2. 申込方法

I. 個人、会社が購入される場合

①郵便振替：払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先をご記入下さい。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

②現金書留：書籍名、冊数、送付先を書いた注文書をご封下下さい。

③代金引換：書籍名、冊数、送付先、「代引希望」と書いた注文書を E-mail または FAX でお送り下さい。別途、代引手数料が必要です。

II. 賛助会員、官公庁が購入される場合

書籍名、冊数、送付先を書いた注文書を E-mail または FAX でお送り下さい。

3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

E-mail：suido@jsidre.or.jp FAX：03-3435-8494

平成 27 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

平成 27 年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切は、平成 26 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照下さい。

平成 27 年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績		農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績			
賞の対象範囲および期間	平成 21 年 10 月から平成 26 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 23 年 10 月から平成 26 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 23 年 10 月から平成 26 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 25 年 10 月から平成 26 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文とする。	平成 25 年 10 月から平成 26 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された報文とする。	平成 24 年 10 月から平成 26 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成 21 年 10 月から平成 26 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			個人
推薦の方法	正会員及び名誉会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			正会員及び名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析した業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通して、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象範囲および期間	平成 16 年 10 月から平成 26 年 9 月までに出版されている一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。	平成 16 年 10 月から平成 26 年 9 月までの業績を対象とする。	平成 24 年 10 月から平成 26 年 9 月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成 21 年 10 月から平成 26 年 9 月までの業績を対象とする。	平成 21 年 10 月から平成 26 年 9 月までの活動を対象とする。	平成 21 年 10 月から平成 26 年 9 月までの活動を対象とする。	平成 24 年 10 月から平成 26 年 9 月までに発表された、農業農村工学に関連した作品を対象とする。	平成 26 年度末に 65 歳以上に達している個人
受賞候補者	著者	個人または組織・団体			個人	個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員及び名誉会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員及び名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員及び名誉会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員及び名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員及び名誉会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員及び名誉会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員及び名誉会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	

選考の方法	学会賞選考委員会において行う
賞の決定	理事会において行う
表彰	農業農村工学会大会講演会において会長が授与する
推薦締切	平成 26 年 10 月末日
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛

第 38 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第 2 報）

「水のワークショップ・展示会」は例年同様「水の週間」のイベントの一つとして行われます。

今年も昨年までと同様に、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、関係団体の協力を得て、農業用水分野として展示の準備を進めてきました。昨年と同様に東京国際フォーラムで開催される丸の内キッズジャンボリーのイベントとして出展します。

多くの方のご来場をお待ちしております。

記

1. 日 時 平成 26 年 8 月 12 日（火）～14 日（木）
10：00～17：00
2. 場 所 東京国際フォーラム G 棟 701
3. 主 催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会
4. 全体テーマ 健全な水循環により、水の恵みを享受できる社会を目指して
5. 農業用水テーマ いのち育む水の恵み
6. 展示内容 学生によるワークショップ、パネル展示、生き物の水槽など

平成 26 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度（原則 1 件 20 万円以内）です。

本年度の申請締切は平成 26 年 9 月 12 日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

- (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
- (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後 1 年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成 26 年 9 月 12 日（金）

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG 名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500 字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願ひ

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 CPD を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 7 月号掲載の問題は 8 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 CPD を、7～9 問正解で 1.5 CPD を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 27 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 27 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第 83 巻（平成 27 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイ

ド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 平成 26 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限り

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考

7. 結果発表

学会誌第 83 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 27 年度全国大会会場でパネル展示

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（一点につき 3 万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送り

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせ

10. 使用权

採用作品の使用权は（公社）農業農村工学会に属

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙

写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固

有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」，「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 82, 83 巻の小特集のテーマ

小	特	集	テ	マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
82 巻	8 号	農業農村整備事業における気候変動への対応および貢献			公募終了
	9 号	これからの“むらづくり”と“まちづくり” —グローバル時代におけるローカル・コミュニティの創造— (仮)			公募終了
	10 号	農地の集積と大区画化が目指すもの (仮)			公募なし
	11 号	先人たちが拓いた田畑、施設、水遣いの今—世代をこえて引き継がれる財産 (仮)			公募終了
	12 号	国土強靱化に資する農業水利施設の更新技術の今 (仮)			7 月 15 日
83 巻	1 号	国際的な研究協力とその波及効果 (仮)			8 月 15 日
	2 号	農業農村工学における ICT 技術の現状と今後 (仮)			9 月 16 日
	3 号	河川における環境配慮の技術 (仮)			10 月 15 日
	4 号	次世代に求められる水利システムの姿 (仮)			11 月 17 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

82 巻 12 号テーマ「国土強靱化に資する農業水利施設の更新技術の今」(仮)

戦後復興時の食料増産施策および高度経済成長に合わせて整備されたわが国の農業水利施設の多くが更新時期をすでに迎えています。基幹的農業水利施設のうち、すでに耐用年数を超過した施設が約 2 割（再建設費ベース）を占めており、管水路の破裂など、施設の経年劣化に起因する突発事故が多発化の傾向にある中、施設の補修・更新を効率的かつ適切に進めていく必要があります。

また、大規模地震や集中豪雨など、これまでの想定を超える規模の自然災害が頻発していますが、南海トラフ地震の被害想定エリアには全国の農業水利ストックの約 3 割が存在するともいわれられており、施設の維持更新に当たっては、地震や豪雨災害

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

などへの対応も求められています。

このような中、これまで数多くの更新技術が考案され、施工実績を積み重ねており、またこれに付随して、施設の経年による老朽化（物理的劣化）とそれに伴う機能・性能の低下を診断するセンシング・モニタリング技術や、将来の維持補修費を的確に予測する LCC などの経済評価なども数多く提案されています。

そこで本小特集では、自然災害に対する耐災診断技術や耐災補強技術をはじめとする、農業水利施設の更新事業における、施工技術や診断技術などに関する報文を広く募集します。

83 卷 1 号テーマ「国際的な研究協力とその波及効果」(仮)

農業農村工学会は2003年に韓国、台湾の学会とともに国際水田・水環境工学会 (PAWEES) を立ち上げました。設立から11年を経た現在、PAWEESの学会誌 Paddy and Water Environment のインパクトファクターは1.0を超え、アジア地域を中心に農業農村工学分野の研究発表および研究者間の交流・議論の場を提供しています。一方、学会としての国際連携だけでなく、大学や研究機関も、各国の研究機関や国際研究機関と協力し、世界各地の農業に関わる問題の解決に取り組む

とともに、相手国の研究・教育体制の強化や能力向上にも貢献しています。そこで得られた実用的な研究成果は現地にフィードバックされ、時にはODAとも連携して、世界の農業の発展に役立っています。

そこで、学会誌83巻1号では、「国際的な研究協力とその波及効果」を特集します。学会、大学、研究機関などの国際的な連携・協力の取組みと、その成果の活用、課題および今後の展望について、学会員から広く報文を募集いたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.025と高く、モンソーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社 : Springer-Japan 社

発行スケジュール : 年4回

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先 : 農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2014年4月に Vol.12, No.2 が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルは IF=1.025 と高い評価を得ております。

また、世界14カ国から Editor (23名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読

者に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。
投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局 : Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL : +81-92-642-2909 FAX : +81-92-642-2914

E-mail : yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針 : 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の

多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等である。

編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)
Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- ・ Editors 14 カ国から 23 名
- ・ Editing Board 26 名
- ・ Chief Management Editors
Dr. Yoshiyuki SHINOBU
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan
Dr. Jin Yong CHOI
Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea
- ・ Managing Editors
Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社 : Springer-Japan 社

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

平成 26 年度東北支部総会・第 57 回東北支部研究発表会ならびに 第 47 回東北支部研修会・第 37 回地方講習会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 平成 26 年 10 月 30 日 (木), 31 日 (金)
2. 会 場 ハーネル仙台
〒980-0014 仙台市青葉区本町 2-12-7
TEL : 022-222-1121 FAX : 022-222-1126
【会場までのアクセス方法】
JR 仙台駅から徒歩 約 15 分
JR 仙石線あおば通駅から徒歩 約 7 分
市営地下鉄広瀬通駅から徒歩 約 3 分
市営地下鉄勾当台公園駅から徒歩 約 5 分
※無料駐車場はございませんので, 公共交通機関をご利用下さい。

3. プログラム (案)

〈第 1 日目〉 10 月 30 日 (木)

- (1) 総会ならびに研究発表会
9 : 00 ~ 9 : 30 受付
9 : 30 ~ 10 : 15 支部総会
10 : 15 ~ 10 : 45 支部賞授賞式
10 : 45 ~ 11 : 00 休憩
11 : 00 ~ 12 : 00 特別講演
12 : 00 ~ 13 : 00 昼食・休憩
13 : 00 ~ 17 : 00 第 57 回支部研究発表会
- (2) 情報交換会
18 : 00 ~ 20 : 00 [会場 : ハーネル仙台]

〈第 2 日目〉 10 月 31 日 (金)

- (3) 支部研修会・地方講習会
9 : 00 ~ 9 : 30 受付

9 : 30 ~ 12 : 00 第 47 回支部研修会

12 : 00 ~ 13 : 00 昼食・休憩

13 : 00 ~ 15 : 30 第 37 回地方講習会

※支部研修会および地方講習会の詳細は, 本誌 8 月号に掲載予定の第 3 報を参照願います。

4. 研究発表申込み

平成 26 年度の全体的な運営については宮城県が担当しますが, 研究発表の受付, プログラム編集は宮城大学が担当します。

本報では, 「研究発表申込み」についてご案内し, 「参加申込み」等は, 本誌 8 月号に掲載予定の第 3 報においてご案内する予定です。

(1) 研究発表申込み・問合せ先

〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立 2-2-1
宮城大学食産業学部環境システム学科
神宮字または千葉まで
TEL : 022-245-2211 (代)
E-mail : jinguji@myu.ac.jp

(2) 要領

研究発表要旨集原稿に投稿票を添えて, 上記 (1) の申込先にお申し込み下さい。

投稿票ファイルは, 農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>) からダウンロードして下さい。

また, 研究発表要旨集原稿の書き方については, 農業農村工学会ホームページを参照して下さい。

(3) 発表方法

5. 一般講演発表者申込方法

(1) 申込み

農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>) の「支部講演会投稿票」の「支部講演会の投稿票について」に従って必要事項を記載し、4. (6) の事務局あてにメール送信して下さい。受領確認はメールで行いますので受領ハガキは不要です。

(2) 申込期限 平成26年7月31日(木)

(3) 原稿締切 平成26年8月29日(金)

(4) 原稿枚数 2枚または4枚

(5) 申込先および問合せ先 4. (6) に同じ

(6) 講演時間 質疑応答を含め15分程度

(7) その他 幅広い分野からの応募を歓迎いたします。

昼食(お弁当)および情報交換会参加の有無につきましては、後日確認させていただきます。

6. その他

(1) 宿泊について

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自での対応をお願いいたします。

(2) 詳細は4. (7) の群馬県農政部農村整備課ホームページをご確認下さい。

第69回中国四国支部講演会ならびに第38回地方講習会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部講演会

日時:平成26年11月5日(水)9:30~17:00

会場:とりぎん文化会館

〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5

TEL:0857-21-8700 FAX:0857-21-8705

E-mail:bunka@torikenmin.jp

2. 情報交換会

日時:平成26年11月5日(水)18:00~20:00

会場:未定

3. 地方講習会

日時:平成26年11月6日(木)9:00~12:00

会場:とりぎん文化会館

4. 問合せ先

鳥取県農林水産部農地・水保全課

秋草・足立・田村

〒680-8570 鳥取市東町1-220

TEL:0857-26-7334・7336 FAX:0857-26-8191

E-mail:nouchi-mizu@pref.tottori.jp

5. 投稿

(1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを含めて1課題3ページ以内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>) の支部講演会投稿要領に従って原稿を作成し、原稿をPDFにしたファイルと投稿票をメールにより下記の申込窓口までお送り下さい。投稿票ファイルは学会のホームページからダウンロードして下さい。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」として下さい。受領確認はメールでの返信で行いま

す。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演者(○印)の方は必ず連絡先メールアドレスをお書き下さい。

(2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも1名は学会員であることが必要です。

(3) 講演方法

個人発表とし、講演補助としてプロジェクター、パソコン、パワーポイントを準備します。

(4) 講演時間

1課題につき15分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みがあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

(6) 参加申込み

講演者は、講演申込みとは別に参加申込みも行い、参加費を納入して下さい。なお、参加申込書等詳細は、第2報でお知らせする予定です。

(7) 原稿の締切

平成26年9月12日(金)必着でお願いします。

6. 申込窓口

鳥取大学農学部生物資源環境学科 兵頭正浩

〒680-8553 鳥取市湖山南4-101

TEL&FAX:0857-31-5912

E-mail:hyodo@muses.tottori-u.ac.jp

7. 詳細

支部講演会、情報交換会および地方講習会の詳細については、本誌8月号に掲載予定の第2報でお知らせいたします。

農村計画研究部会第36回現地研修集会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



主催：農村計画研究部会

協賛：農村計画学会

後援：農林水産省北陸農政局，新潟県，新潟県土地改良事業団体連合会（予定）

1. 日 程 平成26年9月19日（金）

2. 場 所 新潟県長岡市（山古志地区）

3. テーマ 中越から地域の再建を学ぶ
—新潟県中越地震10年の検証と教訓—

4. 趣 旨

東日本大震災等の大災害に伴う長期避難からの帰還の前例には、中越地震や三宅島噴火があげられます。これらを検証することは、東日本大震災の被災地（特に福島県）における今後の帰村を考える上でも大変重要です。農村計画研究部会では、「中越から地域の再建を学ぶ—新潟県中越地震10年の検証と教訓—」をテーマとして、発災後10年になる中越地震からの地域再生について、「避難生活」「住宅再建」「農地復旧」「集落再生」について現地にて学ぶべく現地研修集会を実施します。当事者から直接説明を受けながら経験に学ぶことを目的とするもので、この大変貴重な機会へのご参加をお待ち申し上げます。

なお、現地研修集会は農業農村工学会大会時に開催する討論集会（8月27日（水）朱鷺メッセ）と統一テーマで開催します。

5. プログラム

JR長岡駅にて9:15集合，17:00解散

国営越後丘陵公園（長岡市陽光台仮設住宅跡），やまこし復興交流館おらたる（山古志サテライト，山古志支所），天空の郷（集落移転先での住宅再建，池谷集落の農地復旧，木籠集落の集落再生）などの現場をめぐる。

6. 参加費用

6,000円（昼食代1,000円含む）

（学生・大学院生は3,500円（昼食代1,000円含む））

7. 参加申込み

参加をご希望の方は、参加申込書ファイル（本部会ホームページからダウンロードして下さい）に所要事項を漏れなく記入の上、運営事務局までE-mailに参加申込書ファイルを添付してお送り下さい。原則として団体ごとにまとめてお申し込みいただきますようご協力をお願いいたします。

(1) 申込期限 平成26年9月5日（金）

(2) 申込先

農村計画研究部会 平成26年度現地研修集会
運営事務局

（一財）農村開発企画委員会 担当：落合基継

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館

E-mail：m_ochiai@rdpc.jp

TEL：03-3297-5641 FAX：03-3297-5543

(3) 参加費の納入

参加申込書ファイルに記載している指定口座に、9月12日（金）までにお振り込み下さい。なお振込手数料は参加者のご負担でお願いいたします。

(4) 申込の変更・取消し

9月12日（金）までに運営事務局までE-mailまたはFAXにてお申し出下さい。それ以降の取消しについては、参加費の返還ができませんので、あらかじめご了承下さい。

8. その他

詳細は、本部会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/bukai/keikaku/bukaitop.html>）をご覧ください。

平成26年度土壌物理研究部会研究会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



土壌物理研究部会では、下記期日にて研究会を開催いたします。

詳細につきましては学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/bukai/>）において追ってお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしております。

1. 開催日 平成26年10月24日（金）13:30～17:00

2. 会 場 宮城大学食産業学部 太白キャンパス
（宮城県仙台市）

3. テーマ 現場技術のなかの土壌物理（仮）

4. その他

翌25日には土壌物理学会大会が同会場にて開催されます。

5. 問合せ先

土壌物理研究部会研究会事務局

山形大学農学部 花山 奨

〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23

TEL：0235-28-2841

E-mail：hanayama@tr.yamagata-u.ac.jp

第24回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について（第1報）

特定課題「農道の長寿命化について」

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農村道路研究部会では、以下のとおり第24回研究集会および現地研修会を開催しますので、ご案内いたします。多くの皆様の参加をお待ちしております。

1. 期日 平成26年11月6日（木）研究集会
平成26年11月7日（金）現地研修会

2. 研究集会

- (1) 日時：平成26年11月6日（木）13:00~17:00
(受付開始12:30)

- (2) 会場：三重県教育文化会館
〒514-0003 三重県津市桜橋2-142
TEL：059-228-1122

- (3) 発表内容：特定課題，自由課題
(4) 参加費：4,000円/人

3. 現地研修会

- (1) 日時：平成26年11月7日（金）8:30~15:00
(予定)

- (2) 研修地：松阪～伊勢周辺の農道整備事業現場
(詳細は次号以降に掲載予定。研究部会ホームページ <http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/AnnualMeeting.html> もご覧下さい。)

- (3) 参加費：2,000円/人（昼食代1,000円が別途必要となります。)

4. 申込締切等

発表申込締切 平成26年9月5日（金）

原稿提出締切 平成26年10月3日（金）

参加申込締切 平成26年10月10日（金）

※発表申込書，原稿フォーマット，参加申込書は研究部会ホームページ <http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/AnnualMeeting.html> よりダウンロードして下さい。

農地保全研究部会第35回研究集会の開催について（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 開催日

- (1) 研究集会 平成26年11月26日（水）
(2) 現地研修会 平成26年11月27日（木）

2. 場所

- (1) 研究集会 日本大学生物資源科学部
(神奈川県藤沢市)
(2) 現地研修会 神奈川県中部および西部地域

3. 研究集会テーマ 都市と農地保全（仮）

4. 問合せ先

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
日本大学生物資源科学部生物環境工学科
地域環境保全学研究室 笹田
Email: sasada.katsuhiko@nihon-u.ac.jp
TEL&FAX: 0466-84-3836

5. その他

詳細は第2報として本誌8月号に掲載予定。